

都市再生整備計画

しままつえきしゅうへん
島松駅周辺地区

ほっかいどう えにわ し
北海道 恵庭市

令和4年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークابل推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	北海道	市町村名	えにわし 恵庭市	地区名	しままつまきしやうへんちく 島松駅周辺地区	面積	34.5	ha
計画期間	令和	4	年度	～	令和	6	年度	
交付期間	令和	4	年度	～	令和	6	年度	

目標

大目標：『駅を中心とした安全・安心な持続可能なまちづくり』

目標1：人にやさしく、長く住み続けることのできる生活環境

目標2：駅を中心とした歩行者ネットワーク形成による歩いて暮らせるまちづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○まちづくりの経緯

・本市は、市内にあるJR3駅を中心に恵庭地区、恵み野地区、島松地区に分かれ、それぞれ独自の市街地を形成し、これまでの「拡大成長型のまちづくり」から「コンパクトなまちづくり」に改め取り組んできました。

今後も「コンパクトなまちづくり」を更に推し進め、JR3駅を中心とした都市機能の強化・充実を図ることとしている。

・恵庭市第5期総合計画では、地域の特性を生かしたコンパクトなまちづくりを進めることとし、主要施策としてJR島松駅のバリアフリー化ならびに駅周辺施設の再整備を進めることとしている。

・恵庭市都市計画マスタープランでは、高齢化社会に対応すべく、徒歩や自転車、コミュニティバスなど公共交通を利用して快適に暮らすことができる「歩いて暮らせるまちづくり」を推進し、特に駅から半径1kmの徒歩圏内に生活に必要な利便施設が集約されているコンパクトな市街地を形成し、今後もJR3駅周辺が多機能な地域拠点となるよう都市機能の充実・歩いて暮らせる市街地の形成を図ることとしている。

島松地区については「島松駅周辺活性化事業」として、公共機能の集約、歩行者空間のバリアフリー化を推進することとしている。

・地域住民を中心とした「島松地区まちづくり市民委員会」が設置され、行政と一体となり近年の社会状況、高齢社会、市民意識の変化に対応した将来のまちづくり構想を描き、「駅を中心とした地域にふさわしいにぎやかさ」と「住みごこちのよい、幅広い世代の交流」のあるまちを目指している。

○現況

島松地区はJR島松駅と3本の道道を軸に市街地が形成され、一定水準の都市機能は整っているものの、駅東側に集中し一部施設では老朽化が進み商業業務施設の空き店舗、空き地が目立ち寂れたまちなみとなっている。

JR千歳線により地区が東西に分断され、東西間の往来には遮断時間の長い踏切を横断する必要があり、西側から駅舎や公共施設の在る東側へのアクセス性、東西間の移動経路の安全性の確保が求められている。

島松地区の高齢化率は33.7%(R2.9末)であり、住人の3人に1人以上が高齢者となっており、JR島松駅ならびに駅周辺の公共施設のバリアフリー化が要望が高く、令和元年度よりJR島松駅のバリアフリー化に着手する。

JR島松駅は道立高校の最寄り駅にもなっており、通勤通学のピーク時における駅周辺の安全性が求められている。

課題

・持続可能なまちを形成するには、公共公益施設や生活利便施設間の移動距離が短く利便性の高い都市構造が求められている。

・JR利用者のみならず駅周辺に人が集まる仕組みづくりに向けて、駅西側からのアクセス性向上と東西間の連携強化が必要である。

・恵庭地区、恵み野地区と比較し高齢化が進んでいるもののバリアフリー化が遅れており、早急に駅舎を含めた周辺地域のバリアフリー化が必要とされている。

将来ビジョン(中長期)

【総合計画】「地域の特性を活かしたコンパクトなまちづくり」

土地利用・駅周辺の整備・ユニバーサルデザインを施策とし、住民・事業者・地権者の意見を尊重し、地域の特色を活かした市街地整備と安全安心な都市機能の整備を推進します。

【都市計画マスタープラン】「安心とにぎわいのあるまちづくり」

JR3駅を中心に多機能な「地域拠点」の形成を図るコンパクトシティを推進し、駅周辺の市街地を結ぶ道路網の充実を図り公共交通の利便性を高め、歩行者・自転車ネットワークを形成し歩いて暮らせるまちを実現し、高齢化・国際化に対応したバリアフリー及びユニバーサルデザインの整備を進めます。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
島松地区住民の継続的居住意識	%	市民意識調査による島松地区のこれからも住み続けたいと感じた人の割合	多世代が長く住み続けられる生活環境整備の効果の把握	88	H30	91	R6
区域内道路の歩行空間バリアフリー化	%	区域内道路の歩行空間バリアフリー整備率	歩行空間のバリアフリー化を高めることにより歩行者ネットワークを形成し安全性の向上を図る。	68	R2	87	R6

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
<p>【人にやさしく、長く住み続けることのできる生活環境】</p> <p>駅を中心とした地域のバリアフリー化を進めるとともに、駅周辺の利便性を高め、人口減少と少子高齢社会に対応した市街地を形成し、住民の暮らしやすさを充実させることにより、長く住み続けることのできる持続可能なまちを構築する。</p>		<p>【基幹事業】〈道路〉島松駅沿線バリアフリー化整備</p> <p>【基幹事業】〈道路〉東口駅前広場整備</p> <p>【基幹事業】〈高質空間形成施設 歩行支援施設〉東口駅前広場シェルター整備</p> <p>・関連事業/島松駅バリア解消事業、島松地区生活関連経路バリアフリー化事業</p>
<p>【駅を中心とした歩行者ネットワーク形成による歩いて暮らせるまちづくり】</p> <p>歩行空間整備及びバリアフリー化により安全安心な歩行者ネットワークの形成を図る。</p>		<p>【基幹事業】〈道路〉島松駅沿線バリアフリー化整備</p> <p>【基幹事業】〈道路〉東口駅前広場整備</p> <p>【基幹事業】〈高質空間形成施設 歩行支援施設〉東口駅前広場シェルター整備</p> <p>・関連事業/島松地区生活関連経路バリアフリー化事業</p>
その他		
<p>【住民によるまちづくりの参加】</p> <p>・都市計画マスタープラン(平成23年版)に示す島松地区の基本目標である「人にやさしいまち島松」の実現に向け、地域住民自らが将来のまちの姿を描き、まちづくり構想を策定する場として「島松地区まちづくり市民委員会」を発足し、地域の抱える問題点、意見、意向の整理により、これからの島松地区の方向性を示した「島松地区まちづくり構想」を策定し、地域と行政の連携をもって、効果的なまちづくりを円滑に進めることができるよう取り組んでいる。</p> <p>【他事業との連携】</p> <p>・JR千歳線島松駅周辺地区の交通アクセスの向上と連携強化を図るべく、身障者や高齢者対策としてJR北海道が島松駅舎のバリアフリー化を行うこととし、総合的な島松駅周辺のまちづくりを実施することとしている。</p> <p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <p>・島松駅前広場基本計画の策定(令和元年7月)</p> <p>島松駅前広場の再整備にあたり、駅の特性、まちの特性を踏まえ、幅広いニーズに対応した施設計画を行うこととし、地元自治会、地域女性代表、交通事業者、学校教育関係者、交通管理者、施設管理者の皆様を委員として協力を願い、「島松駅前広場検討会」を設置し、島松駅前広場計画の検討を行い「島松駅前広場基本計画」を策定した。</p>		

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

合計(A+B)	283
---------	-----

[illegible]

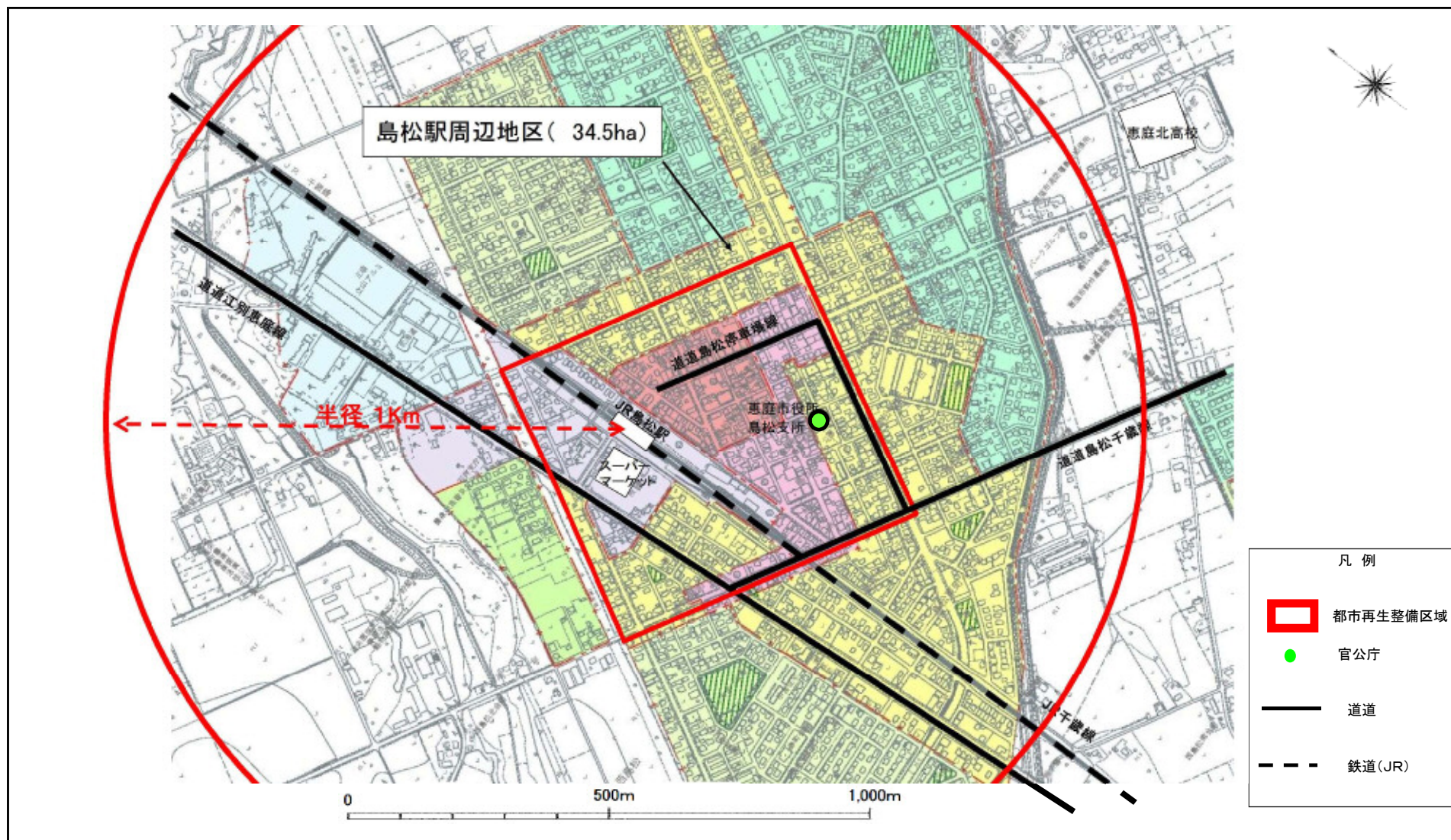
島松駅周辺地区(北海道恵庭市)

面積

34.5 ha

区域

恵庭市島松仲町1丁目、2丁目、島松本町1丁目、島松寿町の一部



島松駅周辺地区(北海道恵庭市) 整備方針概要図

目標	大目標:『駅を中心とした安全・安心な持続可能なまちづくり』	代表的な指標	島松地区住民の継続居住意識 (%)	88 (H30年度)	→	91 (R6年度)
	目標1: 人にやさしく、長く住み続けることのできる生活環境		区域内道路の歩行空間バリアフリー化 (%)	68 (R2年度)	→	87 (R6年度)
	目標2: 駅を中心とした歩行者ネットワーク形成による歩いて暮らせるまちづくり					

